

3 3R推進自主行動計画

容リ法、プラスチック資源循環法に積極的に対応

事業者による3R推進に向けた行動計画

推進協議会による3R推進のための自主行動計画2025の実施状況を下表に示します。数値目標に関しては、2025年度を目標とし、基準年は2004年度としています。

3R推進団体連絡会としての 主体間の連携に資するための行動

詳しくは「3R推進団体連絡会との連携」P15を参照ください。

表1. 推進協議会の3R推進のための自主行動計画2025の実施状況(2023年度)

項目	目標	2023年度実績値	進捗状況
Reduce リデュース	指定PETボトル全体で 25%以上の軽量化 (2004年度比)	28.4%	●2023年度のボトル重量調査を推進協議会を構成する7団体に行った結果、2004年度に比べ、主要な用途・容器サイズ17種で2～41%の軽量化が進み、6種で目標を達成した。 削減効果量は2023年度で237千トン、全体で軽量化率は28.4%と前年度より0.7ポイント増の結果となった。
Recycle リサイクル	リサイクル率 85%以上の維持	85.0%	●2023年度のリサイクル率は85.0%。 国内では415千トン、海外では126千トン、合計541千トンがリサイクルされ、新たな製品に生まれ変わった。
	リサイクル容易性の 向上		●キャップやラベルをできるだけ取り外し、簡易洗浄して分別排出することをWebサイトや広報誌などで自治体ならびに消費者へ広く啓発活動を行った。 ●指定PETボトルの自主設計ガイドライン適合性調査を実施し、不適合ボトルの改善依頼を輸入者・販売会社へ要請し2023年度は、5件の回答を得た。
水平リサイクル	ボトルtoボトル比率50% (2030年度まで)	33.7%	●2023年度の指定PETボトルの販売数量に対するボトルtoボトル比率は33.7%で、前年度より4.8ポイント上昇した。 ボトルtoボトルに利用された再生PET樹脂の量は215千トン、前年度より27.1%増加した。
有効利用	有効利用率100% (2030年度まで)	98.6%	●2023年度の有効利用率は98.6%となった。
環境配慮設計	自主設計ガイドライン の充実	—	●プラスチック資源循環法に基づき制定された「プラスチック使用製品設計指針(告示)」に従い、「PETボトルの環境配慮設計指針」を策定した。
上記以外の 主要な取り組み	広報活動の推進	—	●年次報告書2023を作成し、11月20日に記者発表を行い多数の新聞などに掲載され、高い関心と評価を受けた。 ●広報誌「RING」は、「PETボトルリサイクルの30年」と題して、リサイクルのはじまり、自主設計ガイドラインの制定、再商品化製品の開発を掲載し、Vol.41を発行した。 ●エコプロ2023に出展し、情報提供および啓発活動を行った。 ●市町村や各種展示会へ啓発ツールの提供などを行った。
	調査・研究活動	—	●LCA手法によるリサイクル効果を年次報告書2023で公表した。